

説明書

治療・検査の名称	経皮的移植腎生検術
----------	-----------

説明項目

1. 診断名（病気の名前と進行度）

生体腎移植レシピエント

2. 病気の説明（どこに、なにがおきてどうなっているのか）

生体腎移植の術後に経皮的移植腎生検術を行う理由は2つあります。1つは定期的な術後検査（プロトコール生検）で、もう1つは移植腎機能の悪化を認めたとときの検査（エピソード生検）です。

3. 目的および必要性（なぜこの方法が提案されたのか）

目的：プロトコール生検の目的は今現在の移植腎の状態を把握することです。

エピソード生検の目的は移植腎機能悪化の原因を調べることです。

必要性：採血結果では異常がなくても、移植腎の障害がゆっくりすすむことがあります。プロトコール生検では、そういった障害がないかを調べます。また、将来的に移植腎機能が悪化したときに、過去の組織所見と見比べるための目的（コントロールといいます）もあります。エピソード生検では移植腎機能悪化の原因を調べるために行いますが、生検所見でも原因が分からないこともあります。そういった場合でも、除外診断など生検から得られる情報は非常に大きいです。

4. 方法（なにをどうするのか）

局所麻酔で検査を行います。超音波で移植腎の位置を確認しながら数回針を刺します。2cmほど針がすすむと、組織がとれてくる特殊な針を使用し生検します。超音波で血流を確認し、できるだけ出血のリスクが低い部分を生検します。針が出るときに大きな音が出ますが、驚いて動くと危ないので動かないように気をつけて下さい。組織をすぐに確認して、十分な量が採取できた場合は検査を終了しますが、量が足りない場合は生検を追加します。圧迫止血を行い、検査を終了します。

5. 受けた場合の予想される経過（期待されること）

しばらくは、生検部位に重しをのせて圧迫します。重しをはずした後も数時間はベットの上で安静となります。安静が終了した後も、再出血のリスクがあるため、できるだけ動き回らないようにして下さい。翌日に超音波検査をしてから退院となります。

6. 危険性および起こりうる合併症について（心配されることや副作用）

・出血：検査の直後に十分圧迫止血を行い、出血がないことを確認してから検査終了しますが、それでもごくまれにしばらく時間が経過してから出血することがあります。出血がひど

